



たけだ かつのり
武田 勝義さん（門井）

舞を終え、外した面と同じ表情であれば、最高の神楽だと教えられたそうです。

歴史と伝統の舞

小栗内外大神宮太々神楽

五穀豊穡を祈り、奉納される太々神楽
その舞を伝承してきた神楽師に迫る



ちくせいムービーちゃんねる
「小栗内外大神宮の太々神楽」

小栗判官まつりで、地元伝統芸能として必ず披露される小栗太々神楽。その歴史は古く、江戸時代中期から受け継がれてきており、市内で唯一、県の無形民俗文化財に指定されています。

今回は、その舞を受け継いできた神楽師のみなさんの人柄に触れてみたいと思ひ、座長の鹿一忠（しかかずただ）さんを始めとする小栗内外大神宮太々神楽保存会のみなさんにお話を伺いました。

神楽で育ち、神楽が育てる

「子どもの時から舞を見て育ち、この伝統を継承していきたいとの思いで神楽の世界に足を踏み入れまし

た」と最年長の神楽師・清水正巳（しみずまさみ）さん。清水さんは50年以上、神楽を舞い続けているそうです。

小栗太々神楽の特徴は、娯楽性に重きをおいた舞が独自に確立されていることで、狐（きつね）、ひよつとこ、大蛇（おおろ）など神様以外の面で舞う演目もあります。「観客から歓声があがり、自分の舞でみなさんが喜んでくれるのがうれしく、やり甲斐を感じます」と鹿さんはその魅力を語ります。

次の世代に神楽を託す

神楽は、今でこそ映像を参考に習うことも出来るようになりましたが、それまでは先輩の舞の Handbook と口伝で覚えるしか方法がありませんでした。「舞も少しずつ変わる、若手のほうが上手に舞えたこともある。不得意なことがあっても構わない、得意なことに専念して神楽の役に立つことが一番大切」と大蛇一筋の清水さんは、若手後継者に期待を寄せていました。

みんなで守る太々神楽

神楽保存会の神楽師は11人で活動しており、12の神楽（演目）全てを演じる最低限の人数。例大祭の2か月前から毎週土曜日に境内敷地にある社務所で練習していますが、仕事との両立が難しく、全員揃うことはなかなかないとのこと。

「後継者を増やすためにも、小栗地区出身に限らず、神楽に興味を持つ人に、ご縁があれば協力をお願いしたい」と鹿さん。若手の神楽師には、市外の人もいるそうです。

喜ぶ顔を絶やさない

保存会では、神楽を継承するだけでなく、重要文化財の小栗内外大神宮の環境維持、活動資金の確保、衣装道具の修繕保管などさまざまな取



小栗判官まつりで披露される、八岐大蛇退治



太々神楽保存会のみなさん。お面を外しての写真撮影は貴重です。

雷神社 湯立祭

住所：樋口407

日時：4月5日（日）正午ごろ

小栗内外大神宮 春の例大祭

住所：小栗1

日時：4月19日（日）正午ごろ

問い合わせ

文化課（本庁3階）

☎ 22-0183

り組みを行っています。そのため、各方面のサポートが不可欠で大きな課題です。
4月は雷神社湯立祭と、小栗内外大神宮例大祭で神楽を披露します。みなさんに喜んでもらえる演舞に一途に徹する、神楽師のみなさんに、どうぞ会いに来てください。